



※★
事業名：毛氈(もうせん)、唐人貿易を通じた長崎の歴史・文化の再発見

※★
代表者：砂崎素子(すなさき もとこ)

住所：

電話：

メール： felt.zzxuynakh@icloud.com

《事業概要》※★

寺町・中島川エリア(八幡町・桶屋町・伊良林)を舞台にくり広げた江戸時代の毛氈や、唐人屋敷を中心とした館内・新地エリアが舞台となった長崎唐人貿易等について、座学講座・町歩き・制作を通して、長崎の歴史や文化を再発見します。

《事業のきっかけエピソード》※★

江戸時代に長崎唐人貿易で輸入された毛氈を長崎の地場産業にしようとした史実がよく知られておらず、唐人貿易・毛氈に関連した長崎の町を巡り、過去の歴史に思いを馳せることができるように事業を起こしました。

《事業の中で大切にしているコト・モノ・キモチ》※★

「温故知新」という言葉を大切にしながら事業をすすめていきたいと思います。埋もれていた史料を検証し、長崎の先人たちの夢・心を感じながら、長崎の地役人が尽力して築いてきた長崎の歴史を再発見したいと思います。

《事業者としてのセールスポイント(強み)》※★

座学と町歩きをクロスさせ、さらに制作(毛氈コースター・織物)を通して、長崎の歴史の一端をモノ語るところです。

《事業者として困っている部分(弱み)》※★

毛氈という言葉自体も、毛氈に関わる史実もまだよく知られていないところです。

《「これならまかせて!」(すぐにできる協力について)》

ワークショップ(毛氈コースター制作など)が出来ます。有料

《繋がりのある人・よく話す人》

笹山俊治氏「江戸時代に長崎奉行所武具蔵預を務めた笹山家の現当主」…長崎毛氈研究の新資料となった長崎歴史文化博物館蔵「毛氈製造手続并道具絵図」の旧蔵者のご子孫

岡村真理氏「まいにち長崎 代表」

《これまで作ったもの(パンフレット、本、イベントチラシ、マップなど)》

「長崎毛氈モノ語り 近世期の物質文化の受容と技術の導入」長崎文献社、2022年2月

《認定事業以外に取り組んでいるコト・頑張っているコト》

江戸時代の毛氈の実態をより深めるため、現代にのこる毛氈を探し求め、検証を行っています。毛氈コースターのデザインと制作

《フリースペース》

まちぶらプロジェクト事業を通して、長崎市民の方々とともに学び合い、語り合い、町を歩き、そして、制作では、作る楽しみ、使う楽しみを味わいながら、人とモノとの出会い、時間を大切にしていきたいと思います。

以下の写真は、ワークショップで制作した毛氈コースターの見本です。

